

生活者

“生活者”は、みなさまが常識を覆す発想を生むための「着眼点」をご提供するべく昨年創刊されました。以来、生活進化の背後で感じる葛藤に近い欲求(第1号「白時間」、第2号「弱さ」、第5号「気かね経済学」)を取り上げたり、通常の顧客分析とは異なる観察視点(第3号「足で考えよう」、第4号「習慣発想」)のご提案をしてきましたが、今後も共鳴していただいた方々と共に、新しい社会や市場を着想するための、通り一遍ではない人間洞察への試み・・・生活者発想の試行錯誤に広くチャレンジしていこうと思います。紙面は今年度から、よりポータブルなA4サイズでお届けします。

さて今号では、生活者の不安が低減している調査結果から、いくつかの仮説を展開してみました。私たちの過ごす21世紀初頭は、経済問題・災害・紛争など、不安の波状攻撃で始まりました。多くの社会課題は、大して解決されないまま、私たちの生活に定常化しています。こうした不安の滞留は、ある時期メディアがひとつの事象を集中的に扱うことで爆発し、例えば「トマト→生活習慣病予防」など、消費による小さな安堵を繰り返す苗床になっているのかもしれない。ビジネスや社会制度は、ある意味で、慣れた・麻痺した不安因子を表層に引っ張り出すことで回っているとも考えられます。調査からは、性別や世代別における歴然とした認識差も浮かび上がりました。ここにご提供する思考の土台を、みなさまそれぞれの課題に引き寄せてご覧いただくと幸いです。

今号の発想リソース

社会不安に関する調査

「自分や家族の未来」に不安を感じる社会問題を複数回答で選んでもらう調査を実施。2008年と2013年の5年変化を比較しました。

全国47都道府県
15才～69才男女
2008年3,424名・2013年3,426名
インターネット調査
2008年12月・2013年4月

- 自殺**
集団自殺、自殺系サイト、中高年自殺、子どもの自殺
- 食品の安全性**
BSE、鳥インフルエンザ、残留農薬、食品添加物、遺伝子組み換え食品
- エイズ・HIV・感染症**
HIV、はしか、マラリア、新型インフルエンザ
- メンタルヘルス**
うつ病、ストレス、強迫性障害、依存症、摂食障害、睡眠障害、パニック障害
- エネルギー問題**
石油枯渇、原油価格高騰、原子力発電、クリーンエネルギー
- 大気汚染**
排出ガス規制、黄砂、酸性雨、オゾン層破壊、PM2.5
- 北朝鮮問題**
拉致問題、核・ミサイル問題
- 医師不足**
産科医師不足、へま地医療、医師偏在、医師の長時間労働
- 金融危機**
サブプライムローン、株価低迷、円高、信用収縮、景気悪化
- 森林問題**
国内林業衰退、管理不足(間伐・下草刈り)、熱帯林不法伐採
- 水・食料資源問題**
食料紛争、水資源紛争、食料自給率低迷、遺伝子組み換え
- 高齢者医療・介護**
老人福祉施設、高齢者虐待、有料老人ホーム、介護保険、ホームヘルパー
- 大地震・津波**
家屋倒壊、帰宅困難、物不足、電力不足
- 生物多様性**
生態系保全、絶滅危惧種
- 外国人・移民**
移民受け入れ、外国人労働者、留学生、外国人犯罪
- 大麻・麻薬**
大学生の逮捕、覚せい剤、ドラッグ、合法ドラッグ
- 地球温暖化**
気候変動、二酸化炭素、異常気象、ハリケーン、猛暑
- テロリズム**
宗教紛争、民族紛争、テロリズム、自爆テロ、難民問題
- 日中・日韓問題**
中国の環境問題、中国産食品の安全性、竹島・尖閣問題、従軍慰安婦、歴史教科書問題
- 教育格差・学力低下**
受験、塾、教養低下、活字離れ、理科離れ
- 企業倫理**
企業不祥事、コンプライアンス、ガバナンス、内部統制
- 格差社会**
下流社会、ニート、フリーター、引きこもり、ネットカフェ難民、情報格差、地域格差
- 少子化・人口減少**
出生率低下、労働力人口減少、国力低下、年金制度崩壊、過疎化
- 都市型環境問題**
大気汚染、騒音公害、洪水、ヒートアイランド、緑地の減少、ゴミ問題
- 学級崩壊**
授業崩壊、教師の指導力低下、いじめ、不登校
- 治安悪化**
振り込め詐欺、シャッター通り、外国人犯罪、ピッキング、ボーダーレス型犯罪
- 貧困**
食料不足、飢餓、餓死、水問題、衛生問題、教育機会
- 食習慣・食文化の崩壊**
偏食、朝食抜き、欠食児童、食育、食マナー悪化
- 暴力・虐待**
ドメスティックバイオレンス、児童虐待、家庭内暴力、デートDV、遺棄、親子殺人
- 生活習慣病**
メタボリック症候群、内臓脂肪、糖尿病、脳卒中、心臓病、動脈硬化、血圧ドロドロ、肥満
- 年金制度**
社会保障制度、高齢者格差、国民年金、世代間不公平、世代内不公平
- 公共マナー**
パブリックマナー、携帯電話マナー、喫煙マナー

Q あなたが「自分や家族の未来」に不安を感じるものは、ありますか？

なんで不安が縮んでいるんだろう？

不安ランキング推移

2008年			2013年			2013年のランク項目で見る不安の5年変化	
順位	項目	%	順位	項目	%	増減	2013年 2008年
1	年金制度	64.4	1	大地震・津波(2013年に追加)	55.6	—	—
2	食品の安全性	59.8	2	年金制度	55.0	↓	-9.4
3	高齢者医療・介護	59.0	3	高齢者医療・介護	43.1	↓	-15.9
4	医師不足	58.2	4	大気汚染	41.8	↓	-3.9
5	治安悪化	57.6	4	治安悪化	41.8	↓	-15.8
6	地球温暖化	55.9	6	食品の安全性	41.1	↓	-18.7
7	金融危機	47.1	7	北朝鮮問題	39.1	↑	+8.5
8	格差社会	46.1	8	生活習慣病	37.3	↓	-7.2
9	大気汚染	45.7	9	地球温暖化	35.8	↓	-20.1
10	生活習慣病	44.5	10	日中・日韓問題	34.9	↑	+11.2
11	公共マナー	41.6	11	少子化・人口減少	33.5	↓	-5.8
12	エイズ・HIV・感染症	41.1	12	エネルギー問題	33.4	↓	-7.5
13	エネルギー問題	40.9	13	メンタルヘルス	31.5	↓	-5.4
14	水・食料資源問題	40.0	13	格差社会	31.5	↓	-14.6
15	少子化・人口減少	39.3	15	公共マナー	29.8	↓	-11.8
16	テロリズム	38.7	16	水・食料資源問題	28.3	↓	-11.7
17	貧困	38.4	17	医師不足	28.0	↓	-30.2
18	メンタルヘルス	36.9	18	暴力・虐待	26.8	↓	-7.9
19	暴力・虐待	34.7	19	エイズ・HIV・感染症	26.7	↓	-14.4
20	学級崩壊	32.6	20	テロリズム	26.3	↓	-12.4
21	都市型環境問題	31.7	20	金融危機	26.3	↓	-20.8
22	北朝鮮問題	30.6	22	貧困	25.9	↓	-12.5
23	教育格差・学力低下	30.1	23	学級崩壊	24.0	↓	-8.6
24	森林問題	27.9	24	都市型環境問題	21.6	↓	-10.1
25	食習慣・食文化の崩壊	27.4	25	自殺	20.5	↓	-6.7
26	自殺	27.2	26	教育格差・学力低下	19.4	↓	-10.7
27	大麻・麻薬	26.5	27	食習慣・食文化の崩壊	18.4	↓	-9.0
28	日中・日韓問題	23.7	28	大麻・麻薬	18.3	↓	-8.2
29	外国人・移民	20.6	29	外国人・移民	18.0	↓	-2.6
30	企業倫理	17.5	30	森林問題	16.1	↓	-11.8
31	生物多様性	16.9	31	生物多様性	11.0	↓	-5.9
			32	企業倫理	10.4	↓	-7.1

不安の総量 1203pt → 896pt (2013年追加の「大地震・津波」を除く31項目)

世の中に溢れる社会問題。

その重圧によって生み出される人々の心の影は、どう変化しているのでしょうか。

生活総研では15才～69才に社会不安に関する調査を行い、2008年からの5年変化を比較しました。

何よりも私たちが驚かされたのは、追加した「大地震・津波」を除く全項目の“不安総量”が1203ポイントから896ポイントへと激減、個別に見ても、ほとんどの不安が減っていることでした。

全体的に不安が縮んでいるのは、なぜなのでしょう？ いくつかの仮説を立ててみました。



時の話題による不安の変化

↓ 30pt	医師不足	4位→17位	初	大地震・津波	1位 (2013年のみ)
↓ 21pt	金融危機	7位→20位	↑ 11pt	日中・日韓問題	28位→10位
↓ 19pt	食品の安全性	2位→6位	↑ 9pt	北朝鮮問題	22位→7位

不安にはブームがある

2008年に大きな話題だったリーマンショックや食中毒事件、産科医不足…。喉元を過ぎたことで不安も減りました。逆に、昨今報道などで多く見聞きする地震や近隣外交などへの不安が高まっています。時の話題とともに、不安も移ろいゆくようです。

不安に冷めた男。

不安が熱い女。

2013年 男女別ランキング



「社会のことより仕事が課題」

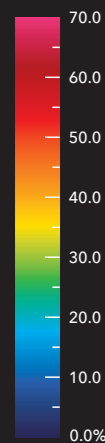
「仕事が忙しくて不安どころじゃない」

「右往左往しても仕方がない」

「私が心配しなくちゃ、誰が備えるの」

「ねえねえ聞いてよ、最近の不安」

「家族のこと、子供のことも、私の不安」



「不安が縮んだ」ことに加え、私たちが驚かされたもうひとつの発見があります。それは、性差による違い。2013年 男女別ランキングに、不安を感じる人が多いものほど暖色系、少ないものほど寒色系といったグラデーション表現を施してみました。全体的に男性は寒色系、女性は暖色系が目立っていることが一目瞭然です。なぜ、不安の感じ方に、こうした性差が生じるのでしょうか？

男と女のすれ違いを脳の構造で解き明かし、世界的ベストセラーになった『話を聞かない男、地図が読めない女』（アラン・ピーズ/バーバラ・ピーズ）によると、「男は感情を隠し、女は感情を表す」傾向があるとのこと。競争心が強く、一匹狼的な男にとって、感情的になるのは自制心のない証拠。人には不安や弱みを見せてはならないという思いが強い。

しかし、オープンで人と協力しあうことを得意とする女は、いつも平然とすましている必要はなく、弱みや感情を素直に表すように脳が配線されている…のだそうです。また、「男はストレスで黙り、女はストレスで喋る」傾向があると書かれています。ストレスがたまったり、プレッシャーを受けた時、男の脳は論理機能が活発化。問題解決

の答えをひとりて考えるのに集中するため、黙りこくってしまふ。一方、女の脳は言語機能が盛んになり、ありとあらゆる悩みを事細かに喋る。問題解決の答えはどうしてもよく、喋ることで気持ちを落ち着かせようとする。男女で不安の感じ方が違う背景には、生物学的な差異があるのでしょう。



性年代別ランキングをご覧ください。年代が高まるにつれ、順位が上がる不安、下がる不安、ある年代をピーク、あるいはボトムとする不安…。ランキングの動きをじ

と見てみると、不安傾向の違いが浮かび上がります。こうした違いから見てきた、各層の背景や行動特性、意識についての気づきをいくつかご紹介します。

30代以上の男性、50代女性
は「年金制度」の方が「大地震・津波」よりも不安。地震は生きているうちには来ないかもしれないが、年金問題は嫌でも必ずやってくると思っているのだろう。

2013年 性年代別ランキング
※ ランキングは同率順位のものを含みます

20、30代男性のみ、「メンタルヘルス」の不安が「生活習慣病」よりも高い。この層に仕事や人間関係などの精神的ストレスが集中しているのだろう。

30代ぐらいまではジャンクフード好きが多いように思うが、**20代男性**で「食品の安全性」の不安が目立って低い。この層の旺盛な食欲は、食育の教えを吹っ飛ばしているのでは。

中高年男性の「自殺」が何かと話題になるが、不安の順位や割合はそれほど高くない。自分事や現実のものとして考えにくいのか。それとも、身近なことだけにあえて目を背けたいのだろうか。

なぜ10代男女で「年金制度」の不安がこんなに高いのだろう。少子高齢化は若年層に重くのしかかっている。

10代男女で「暴力・虐待」が10位以内。いじめやDVが日常化しているのでは。ソーシャルメディアでの悪口などは言葉の暴力ともいえる。10代の人付き合いが複雑で残酷になっているようだ。

30、40代女性は「学級崩壊」に不安を感じる人が3割以上。子供の教育指導は家庭だけではできないが、クレームやモンスターペアレントのように学校での生活や教養に過剰反応する親たちも増えている気がする。

50、60代男女で「高齢者医療・介護」がトップ3入り。しかし、割合はどちらの年代も女性の方が高い。女性には自分に加え、夫の介護も含まれるが、男性の不安には介護されない自分の姿しか含まれていない気がする。